富山市科学博物館
TOYAMA SCIENCE MUSEUM

富山県におけるアオマツムシの分布資料への追加

著者	澤田 昭芳, 根来 尚
雑誌名	富山市科学博物館研究報告
号	38
ページ	127-128
発行年	2014-06-20
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=1004

富山市科学博物館研究報告第38号，pp. 127－128；(2014)

短　　報

富山県におけるアオマツムシの分布資料への追加＊

澤田　昭芳
富山県総合教育センター
930-0866 富山市高田525

根来　尚
富山市科学博物館
939-8084　富山市西中野町一丁目8-31

Additional notes on the distribution of *Truljalia hibinonis* in Toyama Prefecture

Akiyoshi Sawada and Hisashi Negoro

アオマツムシの現時点での県内の分布状態を明らかにするため，2012年に県内一円での調査を行い，その結果を前報（根来・澤田，2013）で報告した．2013年にも追加調査を行ったのでその結果を報告する．

調査方法等は前回どおりである．

今回の調査にあたっても，富山県ナチュラリスト協会会員の牧　静枝氏からは上市町・立山町・射水市・高岡市の多くの地点での有用な情報提供をいただいた．厚く感謝申し上げます．

調査日時・ルート・天候およびアオマツムシ鳴き声の有無

調査の目的は，平地から山間地にかけての生息限界の確認であるので，自家用車の走行ルートは平地から山間地に至る南北方向が主なものとなっている．以下に，調査日時（全て2013年），調査ルート，調査時の天候と主な場所でのアオマツムシ鳴き声確認の有無を記す．「鳴」は鳴き声が確認されたことを示す．「不鳴」は確認されなかったことを示す．なお，標高100 m未満の地点では標高は記さない．

調査者：根来　尚

１．９月14日（18:30～19:50），南砺市，曇り
福光町刀利横谷峠下（標高400 m，18:30）：不鳴，刀利ダム（350 m，18:35）：鳴，福光温泉（220 m，18:50）：鳴，嫁兼（200 m）：鳴，才川七（125 m）：鳴，イオックスアローザスキー場（350 m，19:20）：鳴，医王山林道（500 m，19:30）：鳴，医王山林道（550 m，19:35）：不鳴，オートキャンプ場（700 m，19:50）：不鳴．

２．９月17日（18:30～20:00），南砺市，晴れ
福光町臼中ダム（標高350 m，18:30）：不鳴，臼中発電所付近（300 m）：不鳴，樋瀬戸（250 m，18:45）：鳴，城端町城端（120 m，19:00）：鳴，井口村川上中（150 m）：鳴，東城寺（150 m）：鳴，井波町閑乗寺スキー場（300 m，19:30）：鳴，井波（140 m）：鳴，福野町福野：鳴，安居（20:00）：鳴．

３．９月19日（18:00～20:00），富山市～小矢部市，晴れ
富山市山田村若土ダム（200 m，18:00）：鳴，赤目谷（300 m）：鳴，牛岳温泉スキー場（350 m，18:15）：鳴，小谷の峠（500 m）：鳴，牛岳オートキャンプ場（600 m）：鳴，赤とんぼ広場下（620 m）：不鳴，赤とんぼ広場（650 m，18:30）：不鳴，婦中町上瀬（100 m，19:00）：鳴，砺波市頼成：鳴，高岡市戸出：鳴，砺波市高波：鳴，小矢部市石動（20:00）：鳴．

４．９月30日（18:00～19:30），富山市～高岡市，曇り
富山市八尾町栃折下（340 m，18:00）：不鳴，仁歩発電所付近（280 m）：不鳴，茗ヶ島の橋付近（280 m）：鳴，室牧ダム上流（260 m）：鳴，正間トンネル（300 m，18:10）：鳴，下仁歩（200 m）：鳴，新名（160 m）：鳴，上新町（100 m，18:25）：鳴，上井田：鳴，婦中町萩島：鳴，速星（18:45）：鳴，富山市池多：鳴，射水市小杉町黒河（19:10）：鳴，新湊鏡宮：鳴，高岡市伏木（19:30）：鳴．

５．10月９日（18:00～19:00），富山市，晴・風無し
富山市細入村猪谷（200 m，16:00）：鳴，片掛：鳴，大沢野町笹津（100 m，18:25）：鳴，下大久保：鳴，下熊野：鳴，今泉：鳴，丸の内：鳴，蓮町：鳴，四方（19:00）：鳴

調査者：澤田昭芳

１．10月５日（18:00～18:30），黒部市，晴れ後曇り
黒部市田籾（100 m，18:00）：鳴，池尻：鳴，福平：鳴，布施川ダム（300 m，18:20）：鳴，布施川ダム上流（320 m，18:15）：鳴，布施川ダム上流（350 m，18:20）：不鳴．

２．10月５日（18:30～18:45），黒部市，晴れ後曇り
黒部市田籾（100 m，18:30）：鳴，嘉例沢（400 m，18:40）：鳴，嘉例沢上部（600 m，18:40）：鳴，嘉例沢森林公園付近（650 m，18:45）：不鳴．

３．10月５日（18:55～19:20），黒部市，晴れ後曇り
嘉例沢（400 m，18:55）：鳴，新川育成牧場（300 m，19:05）：鳴，石田野（150 m，19:10）：鳴，山田（19:20）：鳴．

４．10月６日（18:00～18:50），滑川市，晴れ後曇り
湯上（18:00）：鳴，栗山：鳴，安田：鳴，東福寺野（200 m，18:30）：鳴，護摩堂（400 m，18:50）：鳴．

＊富山市科学博物館研究業績第467号

５．10月13日（17:30～18:20），入善町・朝日町，晴れ
浦山新（17:30）：不鳴，下山：鳴，花房（100 m，17:35）：不鳴，岩崎：不鳴，小川温泉元湯（250 m，17:50）：不鳴，上小川橋付近（120 m，18:10）：鳴，南保（18:20）：鳴．
６．10月13日（18:30～19:20），朝日町，晴れ
宮崎城山（250 m，18:30）：鳴，宮崎鹿島社叢（18:40）：鳴，越中宮崎駅（18:45）：不鳴，護国寺：鳴，境：鳴，大平下流（19:05）：鳴，大平（50 m，19:10）：不鳴，大平上流（100 m，19:20）：不鳴．
７．10月28日（16:30～17:20），朝日町，晴れ
笹川（16:30）：不鳴，林道（200 m，16:45）：不鳴，雁蔵（100 m，17:10）：不鳴，三峯（250 m，17:20）：不鳴．
８．10月29日（18:50～19:10），入善町，曇り
園家山（18:50）：鳴，神小沢：不鳴，杉沢（19:00）：鳴，吉原（19:10）：不鳴．

牧　静枝氏提供資料
以下の地点で鳴き声を確認
９月14日（18:00頃），射水市東太閤山・射水市黒川・射水市南太閤山・射水市橋下条・高岡市上伏間江・高岡市上黒田
９月26日（20時ごろ），立山町利田
10月４日（19:00-20:00），立山町二ッ塚・立山町辻・上市町稗田・上市町法音寺・上市町川原田
10月５日（17:45-18:14），立山町東中野新・立山町岩峅寺・立山町末三賀・立山町大清水・立山町西大森

調査結果の概要

上記の結果を図１に示した．これには前回報告分も含んで示してある．今回，主に富山県東部の調査地域が増えたことにより，前回の結果概要で述べたところと少し異なる結果となった．

１．黒部川以東では平野部での分布密度も小さく，山地部分へは侵入がほとんど無い．ただし海岸近くでは標高250 mでも鳴き声が聞かれる．黒部川以西では平野部ではほぼ一円で連続して生息が認められるのに対し，以東では鳴き声が聞かれる場所が連続しない．

ただ，これは調査時期の問題もある可能性がある．黒部川以東では10月中・下旬に行ったが，今年はこの時期急速に夜間の気温が低下しアオマツムシの鳴き声が急激に減少した．これが調査結果に影響した可能性がある．

２．県東部での尾根筋での調査が行われた結果，鳴き声が確認出来た最も標高の高い地点は西部・東部とも標高600 m，多くの尾根筋では400～500 mとなっており，谷筋でも西部・東部とも標高300 m程度までは鳴き声の確認できる場所がある．中部でも谷筋では標高300 m程度までは鳴き声が確認でき，いずれも350 mを超えると谷筋では鳴き声の確認ができない．しかし，西部の多くの谷筋では300 m前後まで鳴き声が確認できたのに比べ，東部の多くの谷筋ではおおよそ200 mを超えると鳴き声が聞かれず，やはり富山県東部と西部では分布標高に差があると言ってもよいと思われる．これは，侵入時期の違いにより，より早くに侵入した県西部でより谷奥まで生息が見られるのかもしれない．

３．尾根筋と谷筋とでは分布標高に違いがあるのは，前回調査と同様で，尾根筋では谷筋に比べより標高の高い所まで生息する．やはり，尾根筋の方が同一標高では平均気温が高くなるのかもしれない．また，同一標高では尾根筋の方が距離的により平地に近いからかもしれない．

４．平地の田園地域で水田中に住居が散在し，樹木のまばらな地域での観察についても触れておく．

富山県北西部に隣接する石川県津幡町（根来の住居周囲）では，水田に囲まれた住居の庭木や水田周囲の単木のカキノキ，水田脇の狭い畑地のススキ等の背の高い草本上でもアオマツムシの鳴き声が聞かれる．富山県内の小矢部市の田園地域魚津市の田園地域でも同様であったが，砺波市や南砺市福光町，立山町の田園地域では住居の樹木や街路樹，単木のカキノキでは聞かれたが，水田周囲の草本上では聞かれなかった．また，県東部の黒部市・入善町・朝日町においては，住居や樹木の連続する場所では，樹上や水田脇の背の高い草本で鳴き声が聞かれたが，住居や樹木がまばらになると，住居の庭木や水田周辺では鳴き声は聞かれなかった．これらのことも，侵入時期の違いを反映しているのかもしれない．

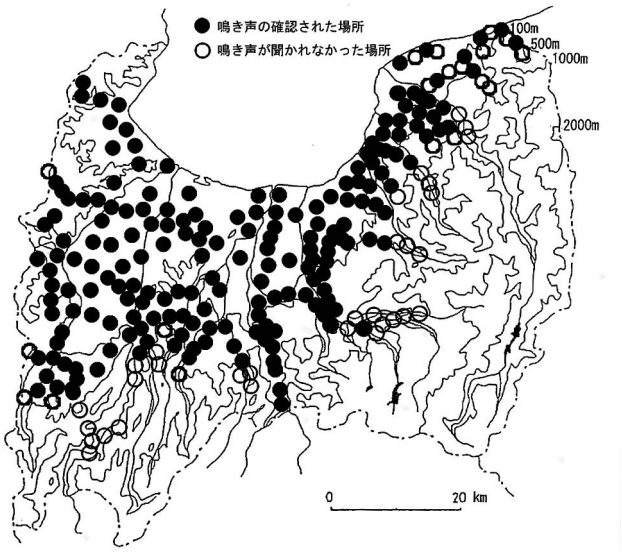


図１　確認された富山県内のアオマツムシ分布

文献

根来　尚・澤田昭芳，2013. 富山県におけるアオマツムシの分布資料．富山市科学博物館研究報告，37: 103-105.

富山市科学博物館研究報告第38号，pp. 129－130；(2014)

短　　報

富山県のガロアムシ類の記録追加と訂正＊

市川 顕彦[1]，澤田 研太[2]，後藤 優介[3]，根来　尚[4]

[1] 日本直翅類学会
551-0012 大阪市大正区平尾4-17-13 北代ビル310：自宅
[2] 富山県動物生態研究会
930-0116 富山市追分茶屋90-1：自宅
[3] 立山カルデラ砂防博物館
930-1405 富山県中新川郡立山町芦峅寺字ブナ坂68
[4] 富山市科学博物館
939-8084 富山市西中野町一丁目8-31

Two additions and a correction to the Grylloblattodea fauna of Toyama Prefecture

Akihiko Ichikawa, Kenta Sawada, Yusuke Goto and Hisashi Negoro

先報（根来他，2013）で，富山県からガロアムシ類の採集記録を報告したが，その後既報告個体とは異なる種と思われる追加個体が得られたことから，追加個体と併せて既報告個体の再同定も行った．その結果，新たな種の確認と共に，同定の誤りが判明したので報告する．

ガロアムシの一種　*Galloisiana* sp. 1

１♂，富山市有峰大多和峠（標高1300 m），2013年６月４日，採集：澤田研太（本標本は富山市科学博物館で保管される）

体長：18 mm，前胸背：長さ／幅＝1.18，尾毛？節（中間節以後欠損），触角：37節

本個体はガロアムシの小型個体の可能性もあるが，長野県西部並びに飛騨地方では，ヒメガロアムシ，オオガロアムシの他では模式産地である栃木県日光のガロアムシ（*G. nipponensis*）よりも平均サイズが小型の個体群が分布しており，そのサイズがほぼ安定しているとみられることから，現状ではこの未記載の種と考えるのが妥当であろう．

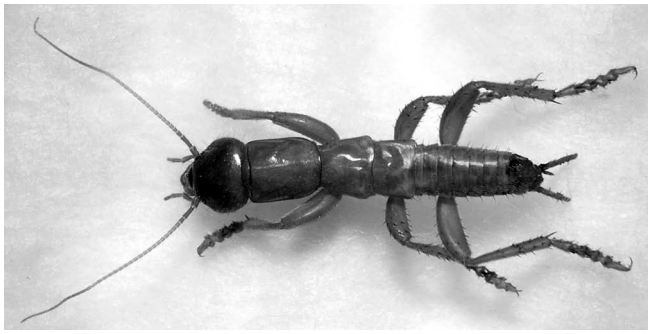


図１　ガロアムシの一種♂



図２　同　頭部・前胸部

ガロアムシの一種　*Galloisiana* sp. 2

１幼虫（♂），立山町千寿ヶ原 立山カルデラ砂防博物館（標高475 m）（本標本はカルデラ砂防博物館で保管される）

体長　20 mm，前胸背：長さ／幅＝1.13，尾毛９節（中間節以後欠損しているがその部分は粘着剤中に存在），触角：51節，おそらく終令幼虫．

本個体は，立山カルデラ砂防博物館の駐車場から館内へ入る通路の荷解き室シャッター横に設置（2013年11月22日～12月19日）した粘着型害虫捕獲器に捕獲されたもので，12月19日の確認時には既に乾燥が進んでおり，数日以上前に捕獲されたものと思われた．駐車場の裏手がすぐ山で湿度の高いスギ林があるため，そこから侵入したものと考えられる．本個体は，オオガロアムシ（*G. kiyosawai*）もしくはその近似種の終令幼虫と考えられるが，オオガロアムシの模式産地である岐阜県平湯温泉の個体より小型のように思われるので，中部地方で得られている未記載の種と考えるのが妥当であろう．

＊富山市科学博物館研究業績第468号



図３　ガロアムシの一種（粘着型害虫捕獲器に捕獲された個体）



図４　同　頭部・前胸部

ヒメガロアムシ　*Galloisiana yuasai* Asahina, 1959

１♂，富山市有峰真川下流，2012年11月１日，採集：澤田研太，後藤優介

体長：14 mm，前胸背：長さ／幅＝1.12（体長・前胸背共にアルコール中保存時測定．乾燥標本作成時に縮んだ．），尾毛９節，触角33＋？節（末節部欠損）

１♀，富山市八尾町白木峰，2000年９月10日，採集：北村征三郎

体長：17 mm，前胸背：長さ／幅＝1.13，尾毛９節，触角35節

上記既報告２個体は，共にガロアムシ（*Galloisiana nipponensis*）の小型個体と同定された個体であるが，サイズがヒメガロアムシの模式産地である長野県徳本峠などの信州西部から近畿北部に分布するヒメガロアムシの大きさとほぼ一致し，眼の発達程度も他地域のヒメガロアムシと同程度であること，また淡い体色等からヒメガロアムシと判断されるので上記のように訂正する．



図５　ヒメガロアムシ♂



図６　同　頭部・前胸部

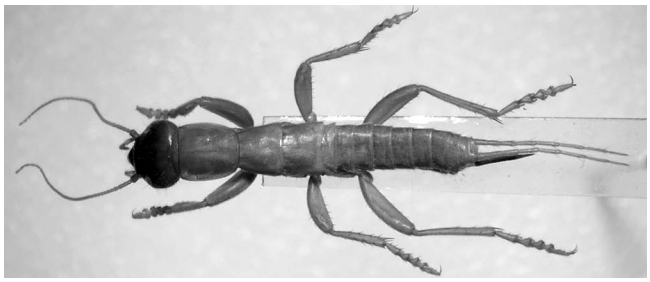


図７　ヒメガロアムシ♀



図８　同　頭部・前胸部

文献

根来　尚・澤田研太・後藤優介，2013．富山市科学博物館収蔵のガロアムシ類．富山市科学博物館研究報告，37：107-108．

短　　報

富山県でのキシノウエトタテグモの記録＊

石須　秀知
魚津埋没林博物館
937-0067 魚津市釈迦堂814

根来　尚
富山市科学博物館
939-8084 富山市西中野町1-8-31

Latouchia swinhoei typica taken in Toyama Prefecture

Hidetomo Ishizu and Hisashi Negoro

キシノウエトタテグモは，本州，四国，九州に分布する地中棲のクモである．日本海側では山形県が北限となっているが，富山県では未発見であった．

本種は，寺社境内や公園，崖地などの比較的明るい所の地中に縦坑を掘り巣とし，坑の入り口に蓋をしている．このような巣を造るため，見つけづらいものである．

また，本種は人の居住区域に近く生息しており，生息地が失われやすく全国的に減少してきているとのことである．

石川県では金沢市内の３カ所から発見されていて，石川県のレッドデータブックでは準絶滅危惧種に指定されている．また，環境省のカテゴリーでも準絶滅危惧種とされている．

本種が，以下のように得られているので報告する．

キシノウエトタテグモ　*Latouchia swinhoei typica* (kishida, 1913)

採集個体：１♂（図１）
採集場所：富山市奥田新町
採集日：2013年10月25日
採集者：石須菖一朗
本個体は，採集者から富山市科学博物館に寄贈され保管される．

本個体は，巣中において発見されたものでは無く，道路上を歩行中の♂個体が得られたものであり，鋭意探索中であるが，まだ，土中の巣は発見されていない．



図１　キシノウエトタテグモ♂

文献

徳本　洋，2009．キシノウエトタテグモ．「改訂・石川県の絶滅のおそれのある野生生物　いしわかレッドデータブック［動物編］2009」石川県野生生物保存対策調査会（石川県環境部自然保護課）：434．

＊富山市科学博物館研究業績第469号